

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000229		
法人名	社会福祉法人 北見睦会		
事業所名	グループホーム かがやきの里むつみ5号館・6号館		
所在地	北見市端野町端野25		
自己評価作成日	令和4年12月21日	評価結果市町村受理日	令和5年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念に基づき利用者様の気持ちになって支援している</li> <li>・明るい楽しい雰囲気作りに努めています</li> <li>・体調変化、緊急時に迅速に対応出来るよう努めます</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195000229-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195000229-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>端野地区で幅広く福祉に関わっている社会福祉法人 北見睦会が運営しており、当事業所は平屋の2ユニットで平成21年開設し小規模多機能事業所を併設しています。事業所の理念「ゆつくり 自分らしく ありのままに・・・」を基本に利用者の現状の状況を把握してその人らしく暮らせるように支援しています。利用前に行っている習慣や生活をなるべく維持できるように、利用者のその時々に合わせて、家事などをお願いし出来ない事はさり気なく支援し生きがいに繋げています。日常では利用者本位に生活できるように、体調に合わせて生活に努め、音楽に合わせた体操や歌を歌ったり、塗り絵やちぎり絵など思い思いに過ごしています。職員は面会禁止や面会制限、思うように外出、外食できないなどの状況下でも利用者の気分転換を図るためゲームや風船バレー等のレクリエーション多く設けたり、ドライブで花見やミニ運動会、敬老会、クリスマス会に職員のギターによる生演奏で利用者と一緒に歌い利用者の笑顔が増えるよう行っています。市民芸術祭に参加し今年度はカレンダーの作成や作品を展示しています。面会の際、家族の要望として利用者の声が聞きたいなどの意見に対して検討、改善し前向きに取り組んでいます。また、職員が目標を掲げスキルアップを目指し意識やモチベーションの向上に活かし、利用者への支援に繋がるよう努めています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はユニット内に提示し共有 その人らしく生活が出来るよう話し合い努めています。	理念に基づく利用者本位となるようにユニット会議で話し合いを継続的に行っています。理念は職員が振り返りやすい見やすいリビングに提示しております。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域清掃 花壇作りなどコロナ禍の中、感染に注意しながら交流をしている。	コロナ感染予防対策で、イベント等の中止がありますが、地域と協力関係は良好で町内会で実施されている清掃活動などに参加し楽しく交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議棟で状況報告、質問等に答えていましたがコロナ禍のため施設での研修会を中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は利用者様、御家族様、町内会、支援センター、交番の警察官へ事業報告等を行っていましたがコロナ禍のため文章にて家族へ状況報告で対応意見等のお願いをしている。	年6回書面にて利用者状況、行事、ヒヤリハット・事故報告等の議事録を行政担当課、町内会会長、民生委員、包括センター、利用者家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らない事などその都度行政に確認、指導を仰いでいる。	提出物などの不明点を電話等で問い合わせ、相談、アドバイスを受けるなど良好な関係が構築されています。研修会の案内などもあり、リモートで参加をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は法人全体で年2回も研修を行ってましたがコロナ禍のため各グループホームで年2回研修を行い拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を実施しその後書面研修を行っています。利用者に対してのスピーチロック、行動抑制などで認知症が進こと等を踏まえヒヤリハットや事故を通して職員間で話し合い改善・解決に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前は法人全体での研修を行ってましたがコロナ禍のため各グループホームで年2回研修(オンライン)年4回会議を行い虐待を行わないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用されている利用様はいませんが実践に取り組込めるよう知識を見つける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時改、定時は説明、ご理解頂ける様、努めてる解らない、不安に思っている事、疑問点は聞いて頂き説明出来るようしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用様、御家族さまより意見、要望があれば話し合い、要望に応えられるよう務める。	利用者家族には、面会禁止や面会制限の中、家族への安心を図るため、個々の利用者の暮らしの写真を家族に送付しています。また、意見要望になるべく添うように職員と情報共有しながら実現に向け支援しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、リーダー会議を行っているが運営に関する意見ありその都度報告するが反映されて無い事もある。	利用者の担当制を導入することで積極的に意見が言いやすく、反映できるよう環境を整えています。職員一人ひとりが目標を設定しモチベーションアップに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回リーダー会議を行いスタッフ等の意見をまとめ話し合いを行っている。スタッフ不足のためまたコロナ禍感染時など業務の負担が大きい状態が続いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のためオンラインにて研修を行っている他スタッフは研修資料を確認する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため出来てない状況。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時間のなるべく短い時間で対応のため。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様が安心して生活が出来るようスタッフ全員が共有し気持ちに寄り添いながら対応します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様が不安、思いをを把握し信頼関係を築くように努めます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の立場を考慮し能力に応じて出来る事は声掛けまた一緒に行くなど支援し関係を築きます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が難しい状況のため電話、来訪時に入居者様の状況を共有しながら支援に努めます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため出来ていない。	コロナ禍のため、墓参りや外泊は出来ませんが、家族や知人とは事前に予約をし時間制限や玄関前等ドア越しでの面会を実施をしています。2ヶ月に1回の訪問美容があります。新聞・雑誌等を読んだり、テレビを見たりと思い思いに過ごしています。携帯電話を持ち込んだり中には喫煙される方もおり支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様どし仲良く支え合い暮らせるようまた孤立しないようスタッフへ間に入り関り支援出来るよう努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も関係を大切にし必要時には支援出来るよう努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で行動、発言等で希望、思いをくみ取りカンファレンス等で話し合い状況により家族へ報告、本人の思いに応えられるように努めます。	利用前の情報を把握し、昔話を織り込み暮らし方の希望・意向について把握するように努めています。帰宅願望の方には、仕事等をお願いしたり寄り添う事で気分を反らしてもらうよう行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、本人、家族様からお話を伺う情報を把握、スタッフ共有し支援に繋げて行く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に記録、送りノートに記載 身体状況を共有し支援に務める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンス。また、急変時等に現状を把握同じサービスケアが行えるよう務める。	見直しは基本3ヶ月～4ヶ月毎に行い。月1回のユニット会議は主にカンファレンスを中心に適切な利用者介護改善に努めています。介護日誌には介護計画の目標達成の可否が記載されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス、また状況変化時に話し合い見直し情報を共有し支援に繋げる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、状況や要望に応じご家族様、ご本人と相談しながら対応します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関に受診、ご家族様受診出来ない時や緊急時は事業者が対応。受診結果をご家族へ報告している。	希望する医療機関の受診は基本家族が行っておりますが、月2回の往診を受ける利用者もいます。2週間に1回、皮膚科の定期的な往診や必要に応じて歯科往診を支援しています。週1回の訪問看護を行い利用者の健康管理に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時、状況により訪問看護師に報告指示仰ぐ。家族へ状況報告し受診対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際に情報提供。コロナ禍のため電話にて状態確認。退院時にDr、ナースより診療経過等の説明と対応の指示受けてます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行いご家族の考えを確認。終末期にはご家族様、医師、スタッフと共に方針を共有し支援します。	利用契約時に重度化や終末期の対応について指針を説明し同意を得ています。重篤の段階で、主治医から家族に説明があり、その後の対応について方針を協議しています。事業所のチームケアで利用者や家族の意向にできる限りの支援・対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の緊急マニュアルが作成されている スタッフ共有している。以前は救命講習に参加していたがコロナ禍のため出来てない。AEDが施設に設置されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急マニュアル 火災訓練(1回) 施設のみで施行。2回目の火災訓練行う予定でしたがコロナ感染(クラスター)のため出来なくその後DVD鑑賞する。	火災避難訓練の1回は自主訓練を夜間想定で事業所と小規模多機能事業所と合同で実施しています。2回目は消防訓練をDVDで観賞しています。	利用者の命と安全性を確保するため、あらゆる災害のシミュレーションを職員と共に行うことを期待します。また、大規模災害における備蓄の整備を併せて期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重しながら声掛け、プライバシーに配慮しながら支援出来るよう努めます。	聞き取りが困難な高齢の利用者が多く、声掛けも大声になる場合がありますが、なるべくプライバシーに配慮した支援を心掛けています。呼称は〇〇さんで、場合によっては家族の了承を得ながら愛称などで対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定出来るよう支援します。言葉で表せない方は表情、行動、危険のない範囲で支援します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を確認し希望にそって支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍のため2カ月に1回訪問美容室。希望を確認、利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや苦手な物を把握している。盛り付け形状も配慮し安全に食事が出来るよう支援する。	調理師の方が調理し食事を提供しています。誕生会には利用者の意向を聞きちらし寿司や行事食にデリバリーを活用したり、おやつに蒸しパンやイモ団子など職員の手作りで利用者の楽しみとなるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に水分、食事量を記録 入居者様の身体状況によりトロミ使用、ゼリー等を把握また介助にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時に声かけ必要に応じた仕上げをスタッフ関わり清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えが出来ない入居者様の排泄間隔を確認しながら排泄の声掛け、状況により2人介助にて対応し排泄を支援する。	トイレでの排出を基本に支援しており、排泄パターンや態度などでトイレに誘導しています。中には自立されている方もおり自らトイレに行っている利用者もいます。夜間は大半は安全性の為センサーを設置しトイレでの排出やオムツ替えを支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品、食物繊維の含まれた食品等を提供個々に応じ対応 病院受診時、訪問看護師時に報告指示受け支援する。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯が決まっていますが希望の有無を確認。週2回入浴行っている。	基本週2回で、その方の体調や希望に合わせて入浴やシャワー浴をリラックスして楽しんで頂けるよう支援に努めています。入浴拒否の場合は、無理強いすることなく気分転換を図ったり日程を変更するなど清潔保持に努めています。同性介助を希望される場合は利用者の意に沿って入浴介助を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等に配慮して安心して休息や午睡が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容と理解に努めている。薬の変更がある時は送りノートに記載。スタッフが共有。服薬にて体調変化時、病院等へ報告指示受ける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物掛け、たたむなど声掛け無理のない範囲で行って頂く。DVDにより体操、レクリエーション等で気分転換が出来るよう支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のためスタッフ対応で車から降りず花見等を行う。家族や地域の方々との協力での外出は出来ていない。	利用者が楽しみとなっている外出に伴う外食は出来ませんが、車中で桜や蓮の花見見学や菊祭りを見に行ったりと可能な外出を心掛けています。また、天気の良い日に日常的に駐車場にベンチを配置し日光浴や畑を見に行ったりと気分転換を図っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方はお金を所持し自動販売機を利用している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話が出来るよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに日差しが入る為、直接、日差しが当たらないよう気を付ける。乾燥に気を付ける。壁に季節に合った飾りをし季節感を感じながら過ごして頂ける様対応する。	季節感のある飾りを利用者と職員と一緒に作成したり行事等の写真が飾られ、家庭的で、温かみある雰囲気になっています。居間は開放的な明るいスペースになっています。落ち着き感と居心地よい環境となるように、温・湿度に気を付け支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる事が多い為テーブルの配置導線を配慮し席等も工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビ、冷蔵庫を置かれまた写真等を飾り利用者様の使いやすいように工夫している。	居室には、収納し易いクローゼットとベット、洗面台等が設置されています。思い出の品や家族の写真を飾ったり遺影、冷蔵庫、テレビ等自分の部屋としてゆったりと過ごせるよう工夫されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁、トイレ、廊下に手すりが配置されて安全に移動が出来るよう工夫している。			